

2018/05/27 先週のメッセージより
「あなたの信仰があなたを直したのです」

■感謝しに戻った人

「ある村にはいると、十人のらい病人がイエスに出会った。彼らは遠く離れた所に立って、声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください。」と言った。イエスはこれを見て、言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中でいやされた。そのうちの一人は、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。そこでイエスは言われた。「十人いやされたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」（ルカ 17:12-19）

ある時、10人の重い皮膚病患者がイエス様によっていやされました。10人のうちの1人は、いやされたことに気がつくや、すぐにイエス様のもとに戻ってきて、礼拝しました。この時、イエス様は、「残りの9人はどこにいるのか」と言われました。

さて、あなた自身はどうでしょうか。感謝する1人になるのでしょうか。それとも、感謝するのを忘れて行ってしまった9人になるのでしょうか。

私たちは皆、イエスが神であることがわからないという病気にかかっていたのですが、イエス様によって病んでいた魂がいやされ、永遠のいのちを得ました。これが救いです。「救う」と「いやす」は、まったく同じ原語です。つまり、救われた私たちは、皆、神のいやしを受けているのです。あなたは、神にいやされて感謝するために戻ってきた1人になるのでしょうか。それとも、「救われたから大丈夫だ」と言って戻ってこなかった9人になるのでしょうか。

感謝するためにイエス様のもとに戻ってきた人は、ひれ伏して礼拝しました。つまり、礼拝に集うことによって、感謝するために神のもとに戻ってきた彼と同じことをしているわけです。そこで、今一度、自分は本当に神に感謝するために神のもとに戻っているのかどうか、自分に問うてみてほしいのです。

私たちは、神によって魂が救われ、イエス・キリストを信じることができるようになり、永遠のいのちを手にし、死んでもよみがえって神の国に行くことができるという完全ないやしを手に入れました。私たちは、何か問題が解決することが感謝すべきことのように思っていますが、救いという根本的な問題がすでに解決しているということを忘れてはなりません。感謝を忘れてはいけません。神が私たちに、「礼拝を守りなさい」と教えているのは、イエス・キリストを知るといはいやしを受けた感謝を忘れてはいけないからです。

■あなたの信仰が、あなたを直したのです

「あなたの信仰が、あなたを直した」とは、わかりやすく翻訳すると、「あなたの人生は、あなたが決める」ということです。イエス様は、「あなたが信じたとおりになる」とも言われました。神が行かせたのではなく、あなたが信じるという選択をしたから、そのようになるのです。

私たちは、つらいことや困難に出会うと、誰かのせいにして文句を言いたくなるものです。しかし、神様は、それは自分の選択の結果であり、神のせいでも人のせいでもなく、責任は自分にあると教えています。

すると、ある人は、「そんなことはない。自分は親を選ぶこともできないし、上司や担任を選ぶこともできない。自分がつらいのは、決して自分が選んだ結果ではない。」と思うかもしれませんが、しかし、その出来事をどのように解釈するかは、自分で選択できるのです。

よく使われるたとえですが、コップに5分の1ほど入った水を見て、「これしかない」と考えるか、「こんなにある」と考えるか、これは解釈の違いです。哲学者ニーチェは、『事実というものは存在しない。存在するのは解釈だけである。』と言いました。この解釈はひとりひとり自分で決めるものです。つまり、何を信じるかはあなたが決めているのであり、それによってあなたの人生は変わります。これが、「あなたの人生は、あなたが決める」ということになるのです。

あなたはいやなことがあると、人のせいにしたり、言い訳をしたりしていないでしょうか。しかし、あなたはそれを自分で選択し、自分でそのように解釈しているということなのです。

アンデルセンの童話「みにくいあひるの子」の主人公は、あひるの子として生まれてきた白鳥のひなです。彼は、「おまえは他のあひると違ってみにくい。ダメなやつだ。」と言われた言葉を、そのまま信じて育ちます。やがて彼は、自分は生きる価値がないと思うに至り、死を決意して出かけた先で、美しい白鳥の群れに出会います。この群れに仲間として迎え入れられた彼は、自分がみにくいあひるの子ではなく、白鳥だったことに気づくのです。彼は、まわりの言葉を信じた結果、その通りになって、みじめな人生を送りました。しかし、別の言葉を信じた結果、まったく新しい人生が開けました。

私たちも同じです。人は、幼い時分に自分の人生の脚本を書いていると言われます。周りから言われた言葉を信じ、そのように生きているのです。ということは、今、自分がつらいと感じるのは、まわりの人々の解釈を信じた結果なのだから、それを信じることをやめて、自分で良い解釈を選択して信じてみてはどうかと、イエス様は、私たちにチャレンジしておられるのです。

私たちは、あらゆる人間関係の場面で、人から悪く言われたり、悪く思われたりすることを気に病み、落ち込みます。それは、あなたがそれを信じたということです。しかし、神はあなたのことを何と言っておられるのでしょうか。神は、あなたのことを「高価で尊い」「非常に素晴らしい」「神の作品」「私はあなたを愛している」「あなたのために命を捨てるのは惜しくない」と語り、あなたはそれほど素晴らしいと言っておられるのです。神様があなたのことを、そこまで素晴らしいものだと言っておられるのに、なぜあなたはそれを信じないのでしょうか。

結局、私たちの問題は、神のことばを信じないで、人のことばを信じるところにあります。あなたがそれを選択したから、あなたが信じたとおりになるのです。神の言葉を信じたら、あなたはいやされ、人のことばを信じたら、みにくいあひるの子のように絶望を繰り返すこととなります。それは誰の選択でもない、あなたの選択です。

しかし、それがわかっているにもかかわらず、私たちはどうしても人のことばを選択して落ち込んでしまうものです。つまり、私たちの苦しみの原因は、神のことばが信じられないところにあるのです。この問題をなんとかしなければなりません。

■神の言葉を選択するために

皮膚病に苦しんでいた彼がしたことは、神に助けを求め、「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」という、イエス様の言葉を信じて、実行に移しただけです。彼は、「せっかく来たのに、そんなバカな！」とか「なぜ祭司のところに行かなければいけないんだ？」と、疑うこともできました。しかし、彼は、神の言葉を信じて実行に移す選択をしました。これが、私たちに必要なのです。

あなたが本当に苦しみから解放されたいと願うのであれば、世の中の解釈ではなく、神の解釈を信じることです。たとえば、神は、「困難は、あなたにとって素晴らしい恵みになる」と解釈します。そこで、「困難にぶつかったら喜びなさい」と教えます。しかし、この世はどうでしょう。困難にぶつかると、「もう無理だ」「あきらめたほうがいい」という解釈をします。出来事をどのように解釈するかによって、人生は変わります。神のことば、聖書の教えを信じて、実行に移すなら、それが私たちを苦しみから解放してくれます。正しい解釈をするために、具体的に、次のことを実行しましょう。

■神のことばを求める

この人は、声を張り上げて、「イエス様、先生。どうぞあわれんでください。」と言って神を求めています。

問題にぶつかったら神の解釈を求めましょう。自分の考えに頼るのではなく、「この出来事をどのように解釈したら良いでしょうか」と祈って聖書を開き、「御言葉をください」と神様に求めましょう。そして、聖書の中から、あなたの心に響く御言葉を探すのです。聖書のどこかに、あなたに答える神のことばが必ずあります。そのことばを見つけて、神様はどういう解釈をするのか、聞いてみましょう。

私たちが会おう出来事は皆、神が解釈してくださいます。困難に出会ったら、自分の解釈ではなく、祈って神の解釈を求めましょう。人の目にはダメだと解釈されるようなことでも、神様は見えるところよりもさらに深い意味を示してくださり、私たちは本当の意味を知ることができます。

あなたの信仰は、あなたが選んだ解釈です。この病人がしたように、神のことばを求めて、信じることにチャレンジしましょう。

■何でもいいから神に求める

「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。」(ヨハネ 14:13-14)

「あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネ 16:24)

私たちの人生は、あなたが求め、あなたが選ぶことで決まるのです。誰かが何かをしてくれるわけではありません。ですから神は、「私があなたを助けるから、何でもいいから求めてごらんください」「あなたが信じたとおりになるから、あきらめず求めなさい」と語っておられます。

神様は、「何の条件もつけないから、何でも求めるように」と言われます。もちろん、求めれば何でも願いどおりになるわけではありません。しかし、御心かどうかを自分で確かめる必要はないのです。どんな願いでもまずは神に求めることが大切です。もしあなたの求めたことが御心と違うのであれば、神は御心の方向に軌道修正してくださるからです。

ペテロを始め弟子達は皆、偉くなることを求めています。今も多くの人が、成功や、成績・業績を上げること、人の上に立つことを求めます。イエス様はペテロたちの願いを知っておられましたが、神に求める内容に条件をつけないと言われた通り、彼らが何を求めても決して否定しませんでした。そして、ペテロは求めた結果、イエス様を裏切りました。けれど、ペテロはそういう自分に出会ったことで、方向を変えられ、正しい方向に進むことができるようになったのです。それは、ペテロが神に求めたからです。求めれば、神様は、私たちの方向が間違っていた時、軌道修正してくださいます。求めなければ何も起きません。ですから、大切なことは、正しいか正しくないかわからなくてもいいから、神に求めるということです。

もしあなたが、「神に祈ったのに祈りが聞かれなかった」と悲しむことがあったら、そうではありません。それは、神に祈ったから止められたということです。神は、あなたが願っているよりも、もっと良い方向に導きたいと願って止められたのです。ですから、聖書は「何があっても感謝なさい」と教えているのです。

大切なことは、まず神に求めることであり、求め続ければ、必ず神はそれを益に変えてくださいます。ペテロは、出世ばかり求めていましたが、砕かれて正しい道に進むことが出来ました。どんなことも、まず神に求めましょう。

■すべてのことを感謝する

「絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」（I テサロニケ 5:17-18）

神が私たちに望んでおられることは、とにかく感謝するということです。そうすれば、正しい選択、正しい解釈ができるようになるからです。今起こっている出来事の意味がわからなくても、まずは感謝することです。

あなたは、祈りが聞かれなかったり、問題にぶつかったりすると、感謝ではなくつぶやくことを選択していないでしょうか。私たちが感謝する根拠は、神が共にいて私たちを愛しておられるからです。神の慰めは、困難の中に潜んでいます。しかし、つぶやくと、その神の恵みが全く見えなくなってしまいます。人生は、誰かのせいではなく、自分の選択した解釈の結果であり、何を信じるかによって決定されるということが、つぶやくことで見えなくなってしまいます。神のことばを選択できれば、感謝しかありません。つぶやくということは、神のことばではなく、人のことばを選択した結果です。人のことばを選択することで、苦しみを感じているのです。

神のことばを求め、何でもいいから神に求め、すべてのことを感謝することを実行してみましょう。そうすることによって、神の思い、考え方が心の中に入り、正しい解釈の選択できるようになります。

神があなたに望んでいるのは、立派なことをすることではなく、ただ感謝することです。それは、私たちが正しい解釈ができるようになるためです。